

ROTARY CLUB OF

# KANAZAWA-NORTH WEEKLY



## 金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 63-1151

会長：山田 安隆 幹事：大村 精二

会報委員長：清水 忠

1974・12月5日

第29号

## レークプラシットの9日間

第361地区ガバナー 川嶋 三代雄氏

ことしの6月27日から9日間、私はガバナーノミネーとしてレークプラシットのR I 国際協議会に参加した。

花散る白樺、早緑匂う丘陵、群青染まるミラー湖、そして紺碧に澄みわたった大空の下で、世界各国から集った1千余名のロータリアンが、夜を日について真剣な討論と講義の日々を送った訳である。

私が日本から用意した名刺は2つ折で、和英の自己紹介のほかに、クナシリを含めた日本の地図を描き、忘れずに361地区を斜線で明記した。

そして地元岐阜本巣にある1300年の老木うすずみの桜が、若木を副えることによって見事蘇った事実を紹介し、ロータリー精神の中にも若い血を注ごうではないかと強く訴えたのである。

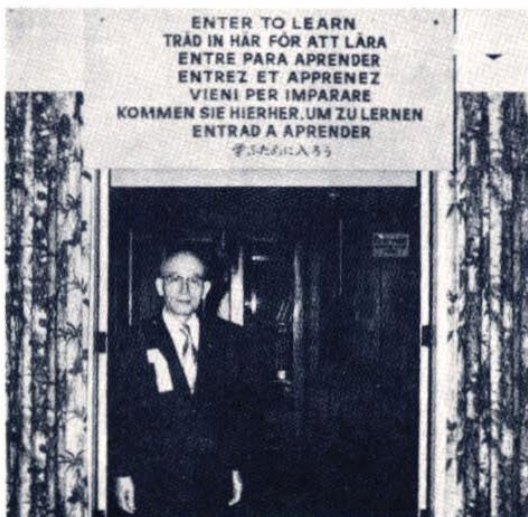
そこに集った人たちは、お互に人種も思想も文化も異なる異邦人である。しかし、ひと

く人間として、心の奥底でかよい合うものがあつた。そして、その心と心のふれあい、友情と信頼の絆をつなぎひろげることこそロータリーの使命であることを強く感じた。

わが人生の最も充実したレークプラシットの9日間を、私は永遠に忘れないであろう。

—金沢北RC例会卓話より—

(文責 清水 忠)



レークプラシットの国際協議会  
会場の入口に立つ川島ガバナー



## 川嶋ガバナー公式訪問特集



### ◆ロータリー梅林予定地を視察する川嶋ガバナーと吉本第一分区分区代理（11月20日午後）

川嶋ガバナー：P.ハリスは将来への投資という意味で、植樹と青少年の指導に最も力を注いだ。当クラブの梅林事業は、その意味ですばらしい事業だ。

### ◆会長・幹事との懇談会

（11月20日16時より ホワイトハウス）

山田会長：38名の小クラブで、クラブ奉仕の13委員会は多すぎるので、6委員会に新編成したが？

川嶋ガバナー：画期的だと思う。しかし会場監督の地位は明確にしておくように。



### ◆クラブアセンブリー

（11月20日17時より ホワイトハウス）

川嶋ガバナー：たった1年の小クラブとは思えぬ。初心を忘れずに益々努力してもらいたい。

吉本第一分区分区代理：調和のとれたクラブとしての発展を期待する。

### ◆ガバナーと分区分区代理を囲む夕食会

（11月20日19時より ホワイトハウス）

厳しい日程の終わったあとは和気あいあいと。川嶋ガバナーが、お帰りの靴を間違えられるというハプニングもあった。



### ◆公式訪問例会卓話

（11月21日13時より ホワイトハウス）

川嶋ガバナー：レークプラシットのバスの中で、私が親子同居していると云ったら、「貴方は金持ちか貧乏人か」と聞かれた。「私は金持ちです」と胸を張って云い切ったのは、その時が最初にして最後だろう。

## 職業奉仕に関する(石川県)研修会

11月27日10時から5時間、ホワイトハウスで開かれた。当日は国鉄スト、年末、不況という悪環境にもかかわらず、県内19RCの会長、幹事、職業奉仕委員長等70名が出席という好成績で、PG塚本義隆氏(大阪)、若松徳衛氏(伊勢)、安田常男氏(金沢東)を講師に、職業倫理、経営モラルの向上について熱心に研修した。



”ロータリーは、自己のために利益を得ようとする欲望と、他人のために尽そうとするヒューマニズムとの間の斗争であり、哲学である。”

(塚本義隆氏の特別講演)

”ライオンや虎でさえも同族を殺さないという。それなのに万物の霊長たる人間が、お互いに殺戮し合うのは、一体どうした事か。その地獄から人間を救うのが、ロータリーの使命であると信ずる。”

(若松徳衛氏の卓話)



”当クラブはロータリアンの信条、四つのテストを全会員に配布し、実践するよう努めている。…… etc”

(木田委員長のスピーチは19RC中ピカー!!)

”Attendance is not for building Record, but for building Rotarian.”

”出席は目的ではなく手段である。しかもそれは記録を作るためではなく、ロータリアンを作るためのものである。”

(ユーモアを交えながらも、格調高い名言が飛び出す塚本義隆氏のスピーチ)





